

チャレ*くま通信

「チャレ*くま通信」は就労移行支援事業所チャレジョブセンター熊谷が定期的に発行する広報誌です



編集部まえがき

少しずつ乾燥が風に乗ってやってくるなか、その湿っぽさより気温も下がるように気持ちごと持っていかれてしまいそうになる秋ごろ。懐かしさをじかに感じるような香りに包まれて私たちは進んでいくのです。どこにも逃げ場がないのであればどこにでも逃げて良いのです。それが私たちの進む選択なのだから。

就職・検定情報

▽今月はハローワークの合同面接会をはじめ、多くの通所メンバーさんが採用面接に臨まれました。書類選考を通過し、面接に進まれる方も増えています。自動車、建設機械リース、調剤薬局、市役所など、業界もさまざま。そんな中、2名の方が内定を獲得しました。医療機器メーカーの研究所と、ITエンジニア専門の派遣会社です。おめでとうございます。▽資格試験ではMOS（パワーポイント）に、1名の方が合格されました。なんと、満点での合格！おめでとうございます。「自信あった？」と聞くと「ありました」と一言。実に、素直で頼もしい感想です。一方、セミナー内で執筆したエッセイが新聞に掲載された方が、今月はなんと、お二人も。あっぱれです。



くま de レポート

「ペンは私たちの声だ」
「セミナー潜入取材」



書く力向上セミナーでのエッセイ執筆演習の様子

■私の居心地のいい場所は、大衆食堂と自然あふれる川辺だ。二つに共通して言えることは、さまざまな音を感じることができるところである。大衆食堂ではメニューの多さから、さまざまな音を楽しめる。厨房から聞こえる天ぷらを揚げる音や、鉄製の鍋とお玉がぶつかり合ったときの

「投稿してみようよ」。ある職員さんの口癖だ。水曜に開催されている「書く力向上セミナー」では毎回、参加メンバーがコラムやエッセイを執筆している。いい作品を見ると反動的に「投稿してみようよ」と勧める。投稿先は、新聞社や出版社。ちよつとした褒め言葉だと思っていたが、違うらしい。スター候補だと信じている。実際、今月はお二人の作品が新聞に載った。そこで今回はスターの原石たちが記した作品の断片をご紹介します。

チャンキ音、茹で上がった麺の水をチャツチャと切る音、さまざまな音が聞こえる。まるで、小さな祭りを体験しているようだ。

この騒がしさが好きだ。そしてもう一つ、自然あふれる川辺の音。広大な自然に囲まれた川辺は、水が緩やかに流れていた。荒々しく流れていた。流れるは耳をすまさないといえぬ。聞き流しは、反対に荒い流れは、うとうという音を立てて流れる。その音の差を感じるのが楽しみの一つだ。あたりは木々に囲まれており、風に煽（あお）られて葉っぱ同士がカサカサとすれ合う音も素敵である。

大衆食堂や川辺など一見、共通性のないものでも、音を感じることによって、リズムの違いや大きさを楽しむことができる。より身近な例をあげれば、まな板で食材を切る音がある。音に没入してみると、まことに心地がよい。

■潜るか、引くか

押し活をしたことがない人間。引き活とでも呼ぶのか。批判をするわけではなく、押し活をしたことがない人々が拠る所を持つ。



個人訓練の時間にもエッセイ執筆に取り組む

「あなたたの押し活は何？」と普通に聞かれるようになった。いわば押し活の押し付けが、「なかなか見つからない自分探し」を助長している気もする。その昔、何かにのめり込んでオタクと呼ばれ、「いい加減にして、勉強しなさい」と半ば引き活が推奨されてきた。しかし、時代は変わってしまったようだ。ある施設に身を置いた際、さまざまな事情を抱えた人が集まったときに醸し出される違和感に飲み込まれそうになり、苦しかった。それでも、人びとの関わり合いのなかで生きていくのであれば、押し活、引き活に関係なく、相手の志向を汲み、自分を改める柔軟さが必要になる。